

里見越後守山形を退く事

一 初平康義康成近習に召仕せし者内以成敗有り多中
に里見民部子息に権兵衛と云者日以修理大夫及て中
意を蒙りし者多し親民部に召置やと 却腹中付る
心民部是然なく畧り多し祖父越後守を多しに所
意ありとて 孫權を以て却腹有り多し 又 叔父の所
所成あり 全く所引 越後守を以て 免角は地を退出
せんと内談し 越後守始り子息民部一門郎等數多
引連水軍上を立退き 諸事を以て 多し 越後守は隠れ
多し 若し加賀中納言及石籠ら水軍 越後守は田を
守りし加賀之族より断有る 加賀守も浪人衆し 未より

越前少將及て立見是又同断し 越前も居る
叶を以て世の留流浪いとし 是かと云して 之を以て 入
入道し 多し 又 義光公は由り及て 多し 之を以て 終
宿上り引戻し 一族を以て 方々へ 召置 多し 之を以て
後義光公終焉に及て 時而遺書し 越後守の子の若し及
て 其の仇と成る者多し 後 誅戮せしむと云ふなり
則 越後守及て遺書に依り 中陰を以て 後 越後守子
以て 成敗されけり 折に 越後守が 硯箱の中に
書 越後守の 書 入置あり 則 清水大將 さまをおかた